

「2017キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)中国」表彰式・記念講演会



平成30年1月24日(水)、広島市において、2017キャンパスベンチャーグランプリ中国(以下、CVG中国)の表彰式を開催した。CVG中国は、中国地域の大学・高専等の学生を対象に、起業家精神を醸成し、創造性・チャレンジ精神に富んだ人材を育成することを目的として、新事業・商品のアイデアやビジネスプランを募集・表彰するもので、当連合会、日刊工業新聞社、中国地域産学官コラボレーション会議(※)などで構成する実行委員会(委員長：苅田当連合会会長)が運営している。16回目となる今回は、111件(17校)の応募があり、その中から最優秀賞など15件の受賞プランを表彰した。

※中国地域の産学官連携を推進する主要88機関による組織体。当連合会ほか3機関が事務局を務める。

◆主催者挨拶

2017キャンパスベンチャーグランプリ中国
実行委員会 委員長
中国経済連合会
会長 苅田 知英 氏



昨年は、テクノロジーの分野では、AI・IoTの急速な進歩が話題となった。例えば囲碁・将棋の世界では、AIが人の能力を凌駕してしまった感があり、逆にテクノロジーが、人の思考によって発展してきた囲碁・将棋の進化にスピードを与え、これまでの常識に捉われない新たな世界を拓きつつある。AI・IoTによる技術革新が、産業や社会を大きく変える時代の転換期を迎えていると言っても過言ではなく、地域が抱える課題を解決する切り札ともなる可能性を秘めている。

このような時代の転換期においては、創造性が豊かで、挑戦する意欲の高い人材が求められており、キャンパスベンチャーグランプリ中国では、学生による新商品・新事業のビジネスプランを競うコンテストを通じて、このような人材の育成を目指している。本コンテストをきっかけに起業する学生はもとより、地域の企業の中で、新しい事業の開拓を先頭に立って推進し、地域に魅力ある産業を生み出す原動力になっていただきたい。

今年度応募いただいたプランの中には、休耕田・空家の活用や、障害者・子どもの安全、子育てや働く女性の支援、食の安全など、正に中国地域が抱える社会的課題に係わる提案も多く、学生の皆さんの問題意識の高さとポテンシャルの高さを改めて認識した。

受賞された方はもちろんのこと、惜しくも賞を逃した皆さんも引き続き粘り強く挑戦し、社会に貢献されることを期待している。

◆表彰

○最優秀賞

【テクノロジー部門】

「メロディー☆アート」

広島商船高等専門学校
安森 琢真さん他



(プラン概要)

私たちは、音楽でリラックスしたり、季節の変化を感じたりと大きな影響を受けている。そこで「メロディー☆アート」と名付けたデバイスを開発した。幼少期の新たな音楽教育や、高齢者の認知症予防、改善にもつながると期待している。

このデバイスは、色ごとに異なる音階が割り振られている「メロディーブロック」と、動物の鳴き声などがする特殊なブロック、並べる土台となる「キャンバス」で構成する。一筆書きの要領で並べることで、絵と音楽を組み合わせた自分だけの作品を作れる。自由にブロックを並べ、後で音楽を流す「スケッチモード」と、音楽を聴いてその通りにブロックを並べていく「音感トレーニングモード」がある。作った作品は、専用アプリを使ってほかの人と見せ合ったり、共有したりすることができる。手で触れて並べ、音楽が流れ、LEDも光るので、視覚、聴覚、触覚に大きな刺激を与えられる。想像力や造形力、発想力そして音感を楽しみながら高めていくことができる。

【ビジネス部門】

「知っちょる？サイクル県やまぐち ～いんサイクル×放置自転車 ＝エコサイクル～」

山口県立大学
河野 ゆりさん他



(プラン概要)

「サイクル県やまぐち」は2016年に始まったプロジェクトで、あらゆる年齢の人が快適にサイクリングを楽しめる県を目指している。このプロジェクトのことを知り、実際に利用・調査して様々な課題を発見したのをきっかけにこのプランを考えた。

放置自転車を利用したレンタサイクルサービスを山口県下関市で始める。メインのターゲットは下関港に停泊するクルーズ船の乗客。クルーズ

船はここ数年で急激に増加している。停泊時間は半日程度が多く、港の付近を観光することになる。自転車を利用すれば短時間で効率的に観光でき、楽しんでもらえる。買い物や食事もしてもらえれば、地元経済の活性化にもつながる。山口県はサイクリングロードの整備を進めている。下関市でも整備が進み、駅から離れた観光地も訪れやすくなった。放置自転車に着目したのは、大学で毎年処分している自転車がたくさんあるため。山口駅付近でも毎年1,000台以上を処分しているという。自転車の利用促進と放置自転車の再利用で「エコサイクル」なビジネスプランだ。山口県の観光客数は減少傾向にあるが、レンタサイクルで新しい客層を取り込みたい。

○優秀賞

【ビジネス部門】

「エージェントに教えることで学ぶ

パーソナライズな学習プラットフォーム」

広島大学大学院 北村 拓也さん他

(プラン概要)

教育を変えたいという思いからプログラミングスクールを作り8店舗を展開するまでになった。今回はもっと直接的に教育を変えるため、子どもとAI(人工知能)が教え合うオンラインの学校というプランを作った。

「育成ゲーム」と「概念マップ」による授業をオンラインで提供する。キャラクターがプレゼンテーションしながら授業をしてくれて、確認のための概念マップが出てくる。これは学習効果が高い手法といわれる。主体的な学びを促すため、ゲームフルなデザインと自分が好きな分野を選んで学ぶことで学習意欲を高め、授業を受けるのか、あるいはマップを組み立てるのかを選べるようにすることで、学習効果の向上を図る。

【ビジネス部門】

「学生用品シェアリングスマホアプリ

『シェアカレ!』」

近畿大学 足立 真一さん

(プラン概要)

手軽で気軽にシェアしよう!をコンセプトにした、学生用品などをシェアできるC to Cのスマホアプリを提案する。教科書やノート、アウトドア用品など、貸したい側と借りたい側の仲介役と

してサービスを提供する。拠点は大学の生協や食堂などに設ける。

借りたい側の対象は、講義で数回しか使わない教科書を買うのがもったいないとか、講義休んだのでノート借りたいといった学生たち。まずはシェアカレでマッチングして決済し、後日店舗に取りに来るといった流れ。

大学の専属店舗でサービス提供することで、アマゾンやメルカリにも太刀打ちできる。大学生の動線上に店舗を持つことで物を動かす必要がなくなり、物流問題を解消できるためだ。

【テクノロジー部門】

「O s t r i c h ☆ i

ーロードバイク用危険検出システムー」

広島商船高等専門学校 栗栖 隆司さん他

(プラン概要)

人気のロードバイクにも問題点が指摘されている。それはスピードの出し過ぎとよそ見運転。乗っている者からしても危険性の問題は深刻だ。そこでこの「O s t r i c h ☆ i (オストリッチ・アイ)」を提案する。

機能は四つ。まずは前方障害物検出。スマホのカメラを用いて障害物を検出し、危険かどうかの判断の処理をスマホで行う。続いては速度超過検出。ロードバイクの速度が設定速度を超えると検出する。三つ目が危険通知。ハンドルが振動することで運転者に危険を通知する。周りの人でもわかるくらい振動するが、走行中はこれくらい振動がないと伝わらない。そして四つ目の機能がドライブレコーダー。危険検出の前後の画像を録画することで、事故時には重要な証拠となる。

○特別賞

「玄関錠のIoT化」

岡山大学大学院 竹内 隆大さん他

「女性のストレス緩和カフェ

『カフェまほろば』

安田女子大学 吉川 忍さん他

○奨励賞

「子ども・高齢者の安全を守るアプリ

「LINK」

安田女子大学 本安 夏実さん他

「トラベルリーダー」

広島工業大学 木野本 敦士さん他

「手書きを助けるレイアウト自動提示デバイス

「Re:Layout」

松江工業高等専門学校 稲葉 光彦さん他

「高周波電流と電磁波の癌治療への応用

「Medical-e」

山口大学 小田喜 雅彦さん

「リファラルリクルーティングアプリの開発」

広島大学 来田 直也さん他

○佳作

「ムスリム向けゲストハウス in 広島」

広島市立大学 安達 彩花さん他

「膝置き型ボタ押し音楽ゲーム機活用による

娯楽を伴う動作訓練の提案」

岡山大学大学院 太田 浩平さん他

「エンジニアコミュニティ「Iコム」

岡山県立大学 高見 俊也さん他

◆審査委員長講評

島根県産業技術センター
所長 吉野 勝美 氏



経済、社会を強化するために、日本、特に地方において切実に求められているのは積極的なベンチャー企業の創出であり、キャンパスベンチャーグランプリ中国は、若者による大胆な発想による新しい事業の構想、展開を提案していただくことを期待して行われている。

今回最優秀賞を受賞した両プランとも内容は勿論、表現力にも素晴らしいものがあり、審査委員はほぼ一致して最優秀賞として選定することとなった。今回の一次選考に漏れたものにも、申請書類にその思い、技術やビジネス、実行計画、将来の展望などが十分に書き込めなかった可能性があるものもあり、残念である。次年度応募する場合は、そのことも含めて申請書類作成にも最大の努力を払っていただきたい。今回残念ながら選から外れた方、これまで挑戦してこなかった方々、新しい芽を見出して構想を進め来年のグランプリに向けて活動を始め、ぜひ挑戦してほしい。

(担当: 三上)